

## 今日のトピック 最近の指標から見る日本経済（2017年10月） 製造業中心に今後も緩やかな景気拡大が見込まれる

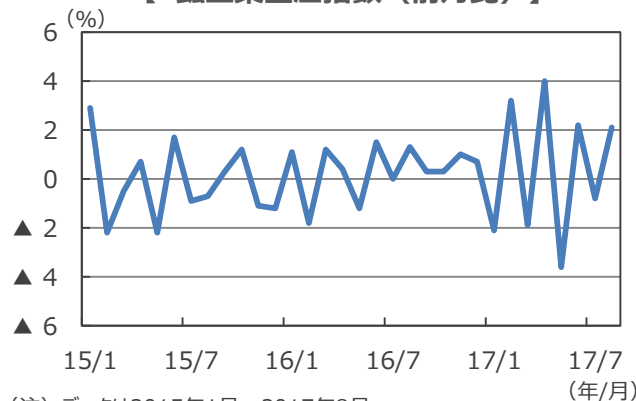
### ポイント1 生産は前月比増加に転じる 自動車や半導体関連が牽引

- 8月の鉱工業生産指数は前月比+2.1%と市場予想（同+1.8%、ブルームバーグ集計）を上回り、前月比で増加に転じました。生産指数、出荷指数の増加に加えて在庫指数が減少しており、内需や輸出の好調さを背景とした増勢が続いています。半導体製造装置などのはん用・生産用機械や輸送用機器などがけん引しました。
- 製造工業生産予測調査によると、9月は同▲1.9%と、一旦減少が見込まれていますが、在庫が減少しているため生産の減少は一時的と見られます。10月は同+3.5%と見込まれています。これに基づく、2017年7-9月期は前期比+0.2%と、増勢を維持すると見込まれます。

### ポイント2 消費者物価は上昇 エネルギー価格上昇が主因

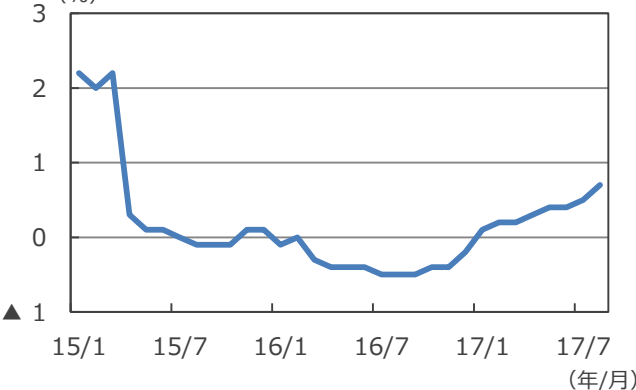
- 8月の消費者物価指数（生鮮食品を除く）は前年同月比+0.7%と、7月の同+0.5%から上昇幅が拡大しました。エネルギー価格の上昇や公共サービス価格の上昇が主因となりました。
- 8月の実質消費支出（二人以上の世帯）は雇用改善などが下支えして前年同月比+0.6%となりました。自動車の購入や住宅リフォームなどが好調でした。

【 鉱工業生産指数（前月比） 】



(注) データは2015年1月～2017年8月。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【 消費者物価指数（前年同月比） 】



(注1) データは2015年1月～2017年8月。  
(注2) 消費者物価指数は生鮮食品除く総合。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 日本経済は製造業中心に緩やかな景気回復が続く見込み

- 日本経済は消費の力強さを欠きますが、海外景気の堅調さに加えて、iPhoneの新製品効果や中国の環境規制による供給削減の追い風もあり、製造業中心に緩やかな景気回復が続くと見込まれ、株式市場の下支え要因となりそうです。一方、物価上昇ペースは緩やかなものにとどまると見られることから、金融緩和の継続が見込まれます。利上げが見込まれる米国との内外金利差の拡大は、円安・米ドル高要因となりそうです。

#### ここも チェック!

2017年10月 4日 日本株式市場の見通し  
2017年 9月21日 日銀の金融政策は現状維持（2017年9月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。